

他の先生方の工夫にとっても興味があります。

ポート・オブ・サクラメント補習授業校の R5 年度小5 の取り組み例です。

他の先生方のご参考になるとは到底思いませんが、改善点などご教示いただけますと幸いです。

- 長い物語や説明文の単元では、授業に入る前の宿題として、意味調べをしてもらっています。一人で分からない単語をすべて調べるのは大変なので、こちらがある程度語句を選んでスライドを作り、一人3個以上を調べて、例文とともに意味を書くこと、などと指示してやってもらっています。資料は「固有種が教えてくれること」の宿題スライド例です。
- 単元に入る前に、宿題で必ず音読音声ファイルや YouTube、その他関連動画を視聴してもらっています。意味調べとセットにすることで、少しは予習として教科書をながめてくれることを期待しているのですが、それが苦手な子にも内容に少しでも興味をもってもらうことを期待しています。
- 説明文については「サンドイッチ」（初め・中・終わり）の構成であることをしつこく伝えています。長い文章でも筆者の一番言いたいことは、最初と最後を読めばよくわかることを毎回、思い出してもらっています。本文をコピーして、「中」の例が入っているところも何が入っているか視覚的に分かりやすいようにして説明しています。初任者研修などで教えていただいたことですが、やはり紙の教材で見せたほうが、小5 ぐらいには分かりやすい気がしています。
- 小説は例えば「たずねびと」は長いです。舞台が広島市の平和記念公園なので、Google Earth で原爆ドームをみたり、平和記念公園の地図をみて、主人公がどこをどう歩いたのかたどったりしています。それぞれの場所での主人公・綾の心情を考える時に少しは助けになる気がします。
- 物語でも意味調べをしてもらいますが、クラスによってはスライドに色々な画像を入れてくれて、視覚的にとらえやすい資料集ができてきます。

- 他の長文でもそうですが、伝記や最後の物語「大造じいさんとガン」は内容をとらえやすくなるように、自作のワークシートを使用しています。（「やなせたかし」ワークシート添付）
- 文章が長文でも、筆者の伝えたいことは、「やなせたかし」や「大造じいさんとガン」では分かりやすいと思います。
そこに焦点をあてて、細かい意味をとるだけでなく（それももちろん大事ですが、それはポイントを押さえるだけで）、なるべく自分の意見を考え続けてもらえるように授業で伝えるように努力しています。

（ポート・オブ・サクラメント補習授業校小5 藻谷 容子）